

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6234123号
(P6234123)

(45) 発行日 平成29年11月22日(2017.11.22)

(24) 登録日 平成29年11月2日(2017.11.2)

(51) Int.Cl.

F I

B 4 1 J 17/32 (2006.01)

B 4 1 J 17/32

A

請求項の数 6 (全 19 頁)

(21) 出願番号 特願2013-183964 (P2013-183964)
 (22) 出願日 平成25年9月5日(2013.9.5)
 (65) 公開番号 特開2015-51516 (P2015-51516A)
 (43) 公開日 平成27年3月19日(2015.3.19)
 審査請求日 平成28年8月31日(2016.8.31)

(73) 特許権者 000001007
 キヤノン株式会社
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 (74) 代理人 100126240
 弁理士 阿部 琢磨
 (74) 代理人 100124442
 弁理士 黒岩 創吾
 (72) 発明者 鈴木 勝基
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号キヤ
 ノン株式会社内
 審査官 大関 朋子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 インクリボンカセットおよびプリンタ装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インクリボンが巻き回された供給ボビンと、
 前記供給ボビンから供給されるインクリボンを巻き取るための巻取りボビンと、
 前記供給ボビンと前記巻取りボビンとを略平行かつ回転可能に支持するための筐体と、
 前記供給ボビンまたは前記巻取りボビンの回転規制部と係合することにより、前記供給
 ボビンまたは前記巻取りボビンの回転を規制する弾性係合部であって、前記供給ボビンお
 よび前記巻取りボビンの回転軸方向に弾性変形が可能な弾性係合部と、
 前記供給ボビンまたは前記巻取りボビンの回転方向への前記弾性係合部の変形を規制す
 る規制部と、を有し、
前記弾性係合部の先端は、前記筐体に設けられた開口部を介して前記筐体の外側に突出
していることを特徴とするインクリボンカセット。

【請求項 2】

前記インクリボンカセットがプリンタ装置に装着される場合に、前記弾性係合部の先端
 が前記プリンタ装置の一部と当接することにより、前記供給ボビンまたは前記巻取りボ
 ビンの回転の規制が解除されることを特徴とする請求項 1 に記載のインクリボンカセット。

【請求項 3】

前記規制部は、前記開口部の側壁として設けられていることを特徴とする請求項 1 に記
 載のインクリボンカセット。

【請求項 4】

10

20

前記インクリボンカセットの筐体は、複数のケースを係合することにより形成されており、

前記弾性係合部と前記開口部とは、異なるケースに設けられていることを特徴とする請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載のインクリボンカセット。

【請求項 5】

前記弾性係合部は、前記複数のケースを係合するための係合部の近傍に設けられていることを特徴とする請求項 4 に記載のインクリボンカセット。

【請求項 6】

請求項 2 に記載のインクリボンカセットを装着可能なプリンタ装置であって、前記弾性係合部の先端と当接させるための当接部を、前記インクリボンカセットを挿入するための挿入口に設けたことを特徴とするプリンタ装置。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、インクリボンカセットおよびインクリボンカセットを装着可能なプリンタに関するものである。

【背景技術】

【0002】

昇華型プリンタは、サーマルヘッドとプラテンローラにより用紙等の記録媒体とインクリボンを圧接し、サーマルヘッドに通電することでサーマルヘッド上の発熱体を発熱させインクリボンに塗布されている染料を昇華させ用紙に転写することにより印画を行う。

20

【0003】

インクリボンはプリンタ本体から容易に着脱可能にするためにインクリボンカセット内にインクリボンが巻かれた円筒状の供給ボビンと巻き取りボビンが収納されるように構成され、インクリボンカセット内で供給ボビン及び巻き取りボビンが回転可能に保持される。インクリボンカセットをプリンタ本体に装着した際に、供給ボビンと巻き取りボビンの間にサーマルヘッドが位置し、インクリボンと用紙を重ねた状態でサーマルヘッドをプラテンローラに圧接させながらサーマルヘッドを駆動させて印画するようになっている。

【0004】

インクリボンカセットをプリンタ本体に装着して使用するまでの間には、運搬などによる外部からの振動がインクリボンカセットに加わることがある。このインクリボンカセットに加わった振動によって供給ボビン、巻き取りボビンに巻かれたインクリボンが巻き緩んでインクリボンカセット内部からインクリボンが引き出されてしまう。そこで、インクリボンカセットがプリンタ本体に装着されていない時には、インクリボンカセット内の供給ボビン及び巻き取りボビンが回転しないようにする必要がある。

30

【0005】

特許文献 1 では、供給ボビン及び巻き取りボビンの端面部に設けられた凹部とインクリボンカセット内壁にある凸部と係合させることで、供給ボビン及び巻き取りボビンの回転を規制するインクリボンカセットが開示されている。特許文献 1 では、インクリボンカセットの内部に設けられたモールド片により供給ボビン及び巻き取りボビンを軸方向に付勢し凹部と凸部を係合させることで、回転を規制している。また、使用時には、供給ボビン及び巻き取りボビンを軸方向に弾圧することで回転の規制を解除している。

40

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】特開 2001 - 205881 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、特許文献 1 に開示された従来技術では、供給ボビン及び巻き取りボビン

50

をモールド片のような樹脂パネによりスライドさせるため、ボビンに巻かれたインクリボンの容量が多く重量が重くなった場合には、樹脂パネにかかる負荷が大きくなってしまう。そのため、樹脂パネの破損や変形が発生しやすく、また、強度の大きいモールドが必要となるという課題が発生する。

【 0 0 0 8 】

また、インクリボンが巻かれている供給ボビン、巻き取りボビンをスライド移動させるため、インクリボンにしわが発生し、印画に影響を及ぼしてしまうことも考えられる。

【 0 0 0 9 】

そこで、本発明は上述の課題に鑑みてなされたものであって、インクリボンの巻き緩みを防ぐために、供給ボビン、巻き取りボビンの回転を規制可能なインクリボンカセット
10
であって、さらに、供給ボビン、巻き取りボビンを回転軸方向に移動させなくても、供給ボビン、巻き取りボビンの回転を規制可能なインクリボンカセットを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 0 】

本発明のインクリボンカセットは、

インクリボンが巻き回された供給ボビンと、前記供給ボビンから供給されるインクリボンを巻き取るための巻取りボビンと、前記供給ボビンと前記巻取りボビンとを略平行かつ
20
回転可能に支持するための筐体と、前記供給ボビンまたは前記巻取りボビンの回転規制部と係合することにより、前記供給ボビンまたは前記巻取りボビンの回転を規制する弾性係合部であって、前記供給ボビンおよび前記巻取りボビンの回転軸方向に弾性変形が可能な弾性係合部と、前記供給ボビンまたは前記巻取りボビンの回転方向への前記弾性係合部の変形を規制する規制部と、を有し、前記弾性係合部の先端は、前記筐体に設けられた開口部を介して前記筐体の外側に突出していることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明によれば、供給ボビン、巻き取りボビンを回転軸方向に移動させなくても、供給ボビン、巻き取りボビンの回転を規制可能なインクリボンカセットを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】プリンタ本体 1 0 0 とインクリボンカセット 2 0 0 の全体を示した斜視図

【図 2】インクリボンカセット 2 0 0 の斜視図

【図 3】インクリボンカセット 2 0 0 の分解斜視図

【図 4】供給ボビン 2 0 5（巻き取りボビン 2 0 7）の斜視図

【図 5】上ケース 2 0 1 の斜視図

【図 6】上ケース 2 0 1 に供給ボビン 2 0 5、巻き取りボビン 2 0 7 を組み込んだときの上面図

【図 7】プリンタ本体 1 0 0 の側面図

【図 8】プリンタ本体 1 0 0 の側面図

【図 9】プリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 を装填するときの動作を説明する断面図

【図 1 0】インクリボンカセット 2 0 0 の断面図

【図 1 1】インクリボンカセット 2 0 0 が床面 4 0 0 にあるときの側面図および断面図

【図 1 2】プリンタ本体 1 0 0 の印画動作を説明するための断面図

【図 1 3】プリンタ本体 1 0 0 の印画動作を説明するための断面図

【図 1 4】プリンタ本体 1 0 0 の印画動作を説明するための断面図

【図 1 5】第 2 の実施形態に係るインクリボンカセット 2 0 0 の斜視図

【図 1 6】第 2 の実施形態に係る上ケース 2 0 1 の斜視図

【図 1 7】第 2 の実施形態に係るインクリボンカセット 2 0 0 の断面図

10

20

30

40

50

【発明を実施するための形態】**【0013】**

(第1の実施形態)

以下に、図1及至図15を参照して、本発明の第1の実施例を説明する。

【0014】

図1は、本発明の実施形態にかかわるプリンタ本体とインクリボンカセットの全体を示した斜視図である。

【0015】

100はプリンタ本体であり、200はインクリボンカセット、300は用紙トレイである。プリンタ本体100の側面にはインクリボンカセット200を装着可能にするためのインクリボンカセット挿入口101があり、インクリボンカセット200は矢印A方向に着脱可能である。矢印Aは、インクリボンカセット200内に収納される供給ボビン205および巻取りボビン207の回転軸と平行な方向である。105は、インクリボンカセット挿入口101のための蓋であり、開閉可能とするために回転自在に取り付けられている。

10

【0016】

プリンタ本体100の前面には用紙トレイ300を装着可能にするための用紙トレイ挿入口102があり、用紙トレイ300は矢印B方向に着脱可能である。

【0017】

103は表示部、104は操作部でありプリンタ本体100の天面に配されている。表示部103はLCD等の表示手段から構成され、表示部103に印画する画像や画像処理情報などを表示し、操作部104を操作することにより画像を選択し、適宜画像の加工を行い印画することができる。

20

【0018】

図2はインクリボンカセット200の斜視図であり、図2(a)はインクリボンカセット200を天面から見た時の斜視図、図2(b)はインクリボンカセット200を底面から見た時の斜視図である。図3(a)はインクリボンカセットの分解斜視図、図3(b)は第1の下ケース202と第2の下ケース203の斜視図、図4供給ボビン(巻取りボビン)の斜視図である。

【0019】

30

インクリボンカセット200の筐体部分は、図2、図3に示すように上ケース201と第1の下ケース202、第2の下ケース203から構成されている。上ケース201と第1の下ケース202、第2の下ケース203は樹脂で形成されている。

【0020】

図2(a)及び図3(b)に示すように第1の下ケース202は第1の底面202a及び第1の側壁202bから構成されている。第1の側壁202bはインクリボンカセット200における、ボビンの回転軸と略直交する面である側面の一部を形成する凸形状である。第1の側壁202bの反対側には第1の角部202cを有する。

【0021】

同様に第2の下ケース203は第2の底面203a及び第2の側壁203bから構成されており、第2の側壁203bはインクリボンカセット200における、ボビンの回転軸と略直交する面である側面の一部を形成しており、凸形状である。第2の側壁203bの反対側には第2の角部203cを有する。

40

【0022】

インクリボンカセット200は、インクリボン204を供給する供給ボビン205を収納する供給ボビン収納部206とインクリボン204を巻取る巻取りボビン207を収納する巻取りボビン収納部208を有している。供給ボビン収納部206と巻取りボビン収納部208は両端部を連結部209により連結され、所定の間隔をあけて互いに回転軸が平行となるように配置される。

【0023】

50

ここで、第１の下ケース２０２の第１の底面２０２ａ、および、第２の下ケース２０３の第２の底面２０３ａは、供給ボビン２０５および巻き取りボビン２０７の回転軸と略平行に設けられている面である。そして、第１の下ケース２０２の第１の側壁２０２ｂ、および、第２の下ケース２０３の第２の側壁２０３ｂは、供給ボビン２０５および巻き取りボビン２０７の回転軸と略直交する面である。

【００２４】

図３（ａ）に示すように第１の下ケース２０２は供給ボビン収納部２０６を備えており、また供給ボビン収納部２０６の内部には供給ボビン２０５を回転可能に支持する供給ボビン軸受部２１０を備えている。また第１の下ケース２０２は上ケース２０１と係合するために両端部にそれぞれ１対の係合爪部２１１ａ、２１１ｂを備えている。第２の下ケース２０３は巻き取りボビン収納部２０８を備えており、また巻き取りボビン収納部２０８の内部には巻き取りボビン２０７を回転可能に支持する巻き取りボビン軸受部２１２を備えている。また第２の下ケース２０３は上ケース２０１と係合するために両端部にそれぞれ１対の係合爪部２１３ａ、２１３ｂを備えている。

10

【００２５】

図３（ａ）、図４（ａ）、図４（ｂ）に示すように供給ボビン２０５及び巻き取りボビン２０７はともに同一形状をしており、樹脂製である。供給ボビン２０５及び巻き取りボビン２０７は、それぞれ、中央に設けられた筒状の基部２０５ａ、２０７ａ、基部２０５ａ、２０７ａの一端に設けられた小径部２０５ｂ、２０７ｂと他端に設けられた大径部２０５ｃ、２０７ｃとを有している。小径部２０５ｂ、２０７ｂはそれぞれ第１の下ケース２０２の供給ボビン軸受部２１０、第２の下ケース２０３の巻き取りボビン軸受部２１２に回転自在に保持され、供給ボビン２０５、巻き取りボビン２０７が回転自在に保持される。

20

【００２６】

小径部２０５ｂ、２０７ｂと基部２０５ａ、２０７ａの境には第１のフランジ部２０５ｄ、２０７ｄ、大径部２０５ｃ、２０７ｃと基部２０５ａ、２０７ａの境には第２のフランジ部２０５ｅ、２０７ｅが設けられている。第１のフランジ部２０５ｄ、２０７ｄの外側面に複数の凸形状をした回転規制部２０５ｆ、２０７ｆがそれぞれ形成され、軸の円周方向に均等な間隔で配置されている。

【００２７】

図３（ａ）に示すようにインクリボン２０４は第１のフランジ部２０５ｄと第２のフランジ部２０５ｅの間に巻かれている。

30

【００２８】

大径部２０５ｃ、２０７ｃの内壁面に凸部２０５ｇ、２０７ｇが設けられておりプリンタ本体１００に設けられた不図示のボビン回転駆動部と係合し、供給ボビン２０５及び巻き取りボビン２０７を回転駆動することができる。

【００２９】

図５（ａ）は上ケース２０１の斜視図、図５（ｂ）は上ケース２０１の部分拡大図であり、図６は上ケース２０１に供給ボビン２０５、巻き取りボビン２０７を組み込んだときの上面図である。

40

【００３０】

図５（ａ）に示すように上ケース２０１の内壁部から弾性係合片２１４ａ、２１４ｂが一体的に形成されている。また弾性係合片２１４ａ、２１４ｂは、略同一形状である。

【００３１】

図５（ｂ）に示すように弾性係合片２１４ａ（２１４ｂ）は弾性変形可能な腕部２１５ａ（２１５ｂ）と中間部２１６ａ（２１６ｂ）と係合部２１７ａ（２１７ｂ）と先端当接部２１８ａ（２１８ｂ）から形成されている。腕部２１５ａ（２１５ｂ）は二股形状をしており腕部２１５ａ（２１５ｂ）の間に中央空間部２１９ａ（２１９ｂ）を形成している。弾性係合片２１４ａ（２１４ｂ）は中央空間部２１９ａ（２１９ｂ）を中心として左右対称形状をしている。

50

【 0 0 3 2 】

弾性係合片 2 1 4 a (2 1 4 b) は、上ケース 2 0 1 の一部であり、上ケース 2 0 1 と同様に樹脂で形成されている。そして、供給ボビン収納部 2 0 6 (ボビン収納部 2 0 8) を形成する、供給ボビン 2 0 5 (巻き取りボビン 2 0 7) の軸と平行な面である上面 2 0 6 a (2 0 8 a) から、略直角に立ち上がった状態で、弾性係合片 2 1 4 a (2 1 4 b) が形成されている。従って、弾性変形する場合は、腕部 2 1 5 a (2 1 5 b) の、上面 2 0 6 a (2 0 8 a) からのたちあがり部分である根本部 2 1 5 a ' (2 1 5 b ') を中心として、先端当接部 2 1 8 a (2 1 8 b) が円弧を描くように移動することになる。

【 0 0 3 3 】

図 2 (b) は、上ケース 2 0 1 に第 1 の下ケース 2 0 2、第 2 の下ケース 2 0 3 を組み付けた状態である。この状態では、第 1 の下ケース 2 0 2、第 2 の下ケース 2 0 3 に設けられた開口部 2 2 2、2 2 3 から、それぞれ、弾性係合片 2 1 4 a、2 1 4 b の先端当接部 2 1 8 a、2 1 8 b が突出している。また開口部 2 2 2、2 2 3 はインクリボンカセット 2 0 0 の一端側側面に配置されている。

10

【 0 0 3 4 】

図 6 に示すように上ケース 2 0 1 に供給ボビン 2 0 5 を組み付けた際には供給ボビン 2 0 5 の小径部 2 0 5 b が中央空間部 2 1 9 a に入り込む。同様に、上ケース 2 0 1 に巻き取りボビン 2 0 7 を組み付けた際には巻き取りボビン 2 0 7 の小径部 2 0 7 b が中央空間部 2 1 9 b に入り込む。そして、上ケース 2 0 1 の係合部 2 1 7 a、2 1 7 b が、それぞれ供給ボビン 2 0 5 と巻き取りボビン 2 0 7 に設けられた回転規制部 2 0 5 f、2 0 7 f と係合し、供給ボビン 2 0 5 及び巻き取りボビン 2 0 7 の回転を規制する。

20

【 0 0 3 5 】

図 7 はプリンタ本体 1 0 0 のインクリボンカセット挿入口 1 0 1 の部分拡大図である。

【 0 0 3 6 】

インクリボンカセット挿入口 1 0 1 にはインクリボンカセット 2 0 0 がプリンタ本体 1 0 0 に装填された際にインクリボンカセット 2 0 0 の先端当接部 2 1 8 a、2 1 8 b が当接する当接面 1 1 0 a、1 1 0 b が設けられている。

【 0 0 3 7 】

図 8 はプリンタ本体 1 0 0 の側面図である。図 8 (a) はインクリボンカセット 2 0 0 が未装填のときのプリンタ本体 1 0 0 の側面図である。図 8 (b) はプリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 を装填する直前の側面図である。図 8 (c) はインクリボンカセット 2 0 0 が装填されたときのプリンタ本体 1 0 0 の側面図である。

30

【 0 0 3 8 】

1 0 7 はカセットロック、1 1 0 a 及び 1 1 0 b は当接面である。インクリボンカセット挿入口 1 0 1 にはカセットロック 1 0 7 が配されており図 8 (a) に示す位置から図 8 (b) に示す位置に移動可能に構成されている。また、カセットロック 1 0 7 は常に下方向、つまり、第 1 の側壁 2 0 2 b や、先端当接部 2 1 8 a が設けられている方向に付勢されている。

【 0 0 3 9 】

図 8 (b) に示すようにインクリボンカセット 2 0 0 をプリンタ本体 1 0 0 に装填するとインクリボンカセット 2 0 0 によりカセットロック 1 0 7 が押し上げられる。そして、インクリボンカセット 2 0 0 をプリンタ本体 1 0 0 に装填すると図 8 (c) に示すようにカセットロック 1 0 7 とインクリボンカセット 2 0 0 の本体係合部 2 0 1 a が係合しインクリボンカセット 2 0 0 はプリンタ本体 1 0 0 に装填された状態で維持される。

40

【 0 0 4 0 】

インクリボンカセット 2 0 0 をプリンタ本体 1 0 0 から取り出す場合は、カセットロック 1 0 7 を図 8 (c) に示すロック位置から図 8 (b) に示す解除位置まで押し上げることでインクリボンカセット 2 0 0 をプリンタ本体 1 0 0 から取り出すことができる。

【 0 0 4 1 】

当接面 1 1 0 a、1 1 0 b はインクリボンカセット 2 0 0 がプリンタ本体 1 0 0 に装填

50

された際にインクリボンカセットの先端当接部 2 1 8 a、2 1 8 b が当接する面である。

【 0 0 4 2 】

図 9 はプリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 を装填するときの動作を説明する断面図である。図 9 (a) はプリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 を装填する直前の断面図である。図 9 (b) はプリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 を装填した後の断面図である。図 9 (c) はプリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 の弾性係合片 2 1 4 a に外部からの力が加わったときの断面図である。

【 0 0 4 3 】

図 9 (a) に示すようにインクリボンカセット 2 0 0 がプリンタ本体 1 0 0 に装填される前の状態では、供給ボビン 2 0 5 の回転規制部 2 0 5 f と上ケース 2 0 1 の係合部 2 1 7 a が係合しており、供給ボビン 2 0 5 の回転が規制されている。

【 0 0 4 4 】

次にインクリボンカセット 2 0 0 をプリンタ本体 1 0 0 に装填すると、図 9 (b) に示すように第 1 の下ケースの開口部から突出した先端当接部 2 1 8 a がプリンタ本体 1 0 0 の当接面 1 1 0 a と当接する。そのため、弾性係合片 2 1 4 a が図中矢印 C 方向 (スラスト方向) 側に弾性変形し、係合部 2 1 7 a と供給ボビン 2 0 5 の回転規制部 2 0 5 f の係合が解除され、供給ボビン 2 0 5 は回転自在となる。巻き取りボビン 2 0 7 も同様に、インクリボンカセット 2 0 0 をプリンタ本体 1 0 0 に装填すると、回転の規制が解除される。

【 0 0 4 5 】

つまり、プリンタ本体 1 0 0 にインクリボンカセット 2 0 0 を装填すると供給ボビン 2 0 5 及び巻き取りボビン 2 0 7 の回転規制が解除されるためインクリボンカセット 2 0 0 内のインクリボン 2 0 4 を搬送させることができる。ここで、矢印 C 方向は、供給ボビン 2 0 5 のスラスト方向、つまり、回転軸方向である。

【 0 0 4 6 】

このように、回転規制が解除された状態では、弾性係合片 2 1 4 a が図 9 の矢印 C 方向への弾性変形しているため、インクリボンカセット 2 0 0 に図 9 (b) の矢印 D 方向の反力が発生し、インクリボンカセット 2 0 0 が上方向に押し上げられる。インクリボンカセット 2 0 0 の外形はスムーズにプリンタ本体 1 0 0 に装填可能にするために、図 8 (c) に示すようにインクリボンカセット挿入口 1 0 1 に対して小さい形状をしている。そのため、インクリボンカセット 2 0 0 とインクリボンカセット挿入口 1 0 1 は隙間を有している。また、当接面 1 1 0 a、1 1 0 b は、挿入口 1 0 1 の下側、インクリボンカセット 2 0 0 は挿入口 1 0 1 の上側、つまり、当接面 1 1 0 a、1 1 0 b とインクリボンカセット 2 0 0 は、挿入口 1 0 1 の対向する側に設けられている。そのため、インクリボンカセット 2 0 0 を上方向、(プリンタ本体 1 0 0 のカセットロック 1 0 7 側の方向) に押し上げることで、インクリボンカセット 2 0 0 の本体係合部 2 0 1 a がプリンタ本体 1 0 0 のカセットロック 1 0 7 に近づく。そのため、本体係合部 2 0 1 a とカセットロック 1 0 7 の係合が外れることを防止することができる。

【 0 0 4 7 】

弾性係合片 2 1 4 a の弾性変形による反力の本体係合部 2 0 1 a の方向への成分を大きくするために、弾性係合片 2 1 4 a および本体係合部 2 0 1 a は、それぞれ、当接する部分の形状を斜め形状にしている。そのため、先端当接部 2 1 8 a は、側壁 2 0 2 b 側に斜めに傾いた状態で面 2 0 2 d から突出している。反力の本体係合部 2 0 1 a の方向への成分を大きくすることで、本体係合部 2 0 1 a がカセットロック 1 0 7 に近づきやすくなり、本体係合部 2 0 1 a とカセットロック 1 0 7 の係合が外れにくくなり、インクリボンカセットのロックが安定する。

【 0 0 4 8 】

図 9 (c) は、弾性係合片 2 1 4 a に外部からの力が発生し、図 9 (b) に示すプリンタ本体 1 0 0 に装填した時の位置より、更に図中矢印 C 方向に弾性係合片 2 1 4 a が撓んだ場合を示している。この場合、第 1 の下ケース 2 0 2 の開口部 2 2 2 の外周の一部を形

10

20

30

40

50

成している第1の側壁202bと弾性係合片214aが当接する。第1の側壁202bが、弾性係合片214aの過剰な変形を規制するため、弾性係合片214aの破損、変形を抑制することができる。また、第1の側壁202bは、第1の下ケース202の開口部222を有する面202dよりも突出しているため、同じく面202dよりも突出している先端当接部218aと確実に当接する。そして、先端当接部218aよりも、第1の側壁202bのほうが突出しているため、先端当接部218aは、第1の側壁202bより外側には移動できない。そのため、インクリボンカセット200をプリンタ本体100に装填し、蓋105を閉じるときに、先端当接部218aが蓋105と当接して蓋が閉じられなくなるようなことはないような構成になっている。

【0049】

図10はインクリボンカセット200の断面図である。

【0050】

図10に示すように供給ボビン205に外部から回転力が加わると供給ボビン205の回転規制部205fと上ケース201の係合部217aが係合しているため弾性係合片214aが図中矢印Eの方向（供給ボビン205の回転方向）に揺動する。この時、中間部216aの側面が第1の下ケース202の開口部222の内部に設けられた開口部側壁224と当接することにより弾性係合片214aの揺動が規制される。そのために供給ボビン205に外部から大きな回転力が加わった場合においても供給ボビン205の回転を規制し、弾性係合片214aの破損等を防ぐことができる。本実施形態では、開口部側壁224が、弾性係合片214aのボビンの回転方向への変形を規制するための弾性係合片の規制部として機能しているが、他の部材により弾性係合片214aのボビンの回転方向への移動を規制してもよい。

【0051】

同様に巻き取りボビン207に外部から回転力が加わると巻き取りボビン207の回転規制部207fと上ケース201の係合部217bが係合しているため弾性係合片214bが図中矢印Fの方向（巻き取りボビン207の回転方向）に揺動する。この時、中間部216bの側面が第2の下ケース203の開口部223の内部に設けられた開口部側壁225と当接することにより弾性係合片214bの揺動が規制される。そのために巻き取りボビン207に外部から大きな回転力が加わった場合においても巻き取りボビン207の回転を規制することができる。

【0052】

上ケース201には、第1の下ケース202の係合爪部211bと係合する被係合部220が弾性係合片214aの側面外側に配置されている。同様に上ケース201に第2の下ケース203の係合爪部213bと係合する被係合部221が弾性係合片214bの側面外側に配置されている。これらの、上ケース201と第1の下ケース202の係合部分や、上ケース201と第2の下ケース203の係合部分は、係合により強化されている部分である。そのため、弾性係合片214aが弾性変形しても、上ケース201、第1の下ケース202、第2の下ケース203は変形しにくい構成になっている。つまり、係合爪部211b、213b、被係合部220、221を、弾性係合片214a、214bの近傍に配置することにより、弾性係合片が弾性変形した場合に、他の部分も変形してしまうことを防いでいる。

【0053】

図11(a)はインクリボンカセット200が床面400にあるときの側面図であり、図11(b)はインクリボンカセット200が床面400にあるときの断面図である。

【0054】

図11(a)に示すようにインクリボンカセット200を平面である床面400に置いたときは第1の下ケース202の第1の側壁202bと第1の角部202cが床面400と接触する。第1の下ケース202の第1の側壁202bは、床面400と接触するが、先端当接部218aは、床面400と接触しない。これは、先端当接部218aよりも、第1の下ケース202の第1の側壁202bのほうが、矢印I方向（供給ボビン205の

10

20

30

40

50

回転軸と直交する方向)に突出した形状になっているためである。

【0055】

第1の側壁202bが第1の下ケース202の供給ボビン205の回転軸と平行な面から突出していない場合、インクリボンカセット200を床面400等の平面においた場合、床面400と先端当接部218aが接触してしまう。接触すると、インクリボンカセット200の自重により、上ケース201の係合部217aが弾性変形し、供給ボビン205の回転規制部205fと係合部217aの係合が解除され、供給ボビン205の回転の規制が解除されてしまう。回転が解除されると、供給ボビン205は自由回転可能となり、インクリボンが巻きゆるんでしまう。そして、巻きゆるんだ状態でプリンタ本体100のインクリボンカセット挿入口101に装着されると、インクリボンが傷んでしまったり、印刷動作でエラーが発生したりしてしまう。そこで、本実施形態のインクリボンカセット200では、先端当接部218aが床面400と接触することがなく供給ボビン205の回転規制が解除されることを防ぐために、このような第1の側壁202bを設けている。

10

【0056】

また、第1の側壁202bと第1の角部202cでインクリボンカセット200が支持されているため、第1の底面202aが床面400と接触することを抑制することができる。そのため、床面400に堆積している埃等の異物が第1の底面202aに付着することを防止できる。

【0057】

20

また第2の下ケース203においても同様に第2の側壁203bと第2の角部203bが床面400と接触するため、先端当接部218bが床面400と接触することがなく巻き取りボビン207の回転規制が解除されることはない。また、第2の側壁203bと第1の角部203cの2点でインクリボンカセット200が支持されているため、第2の底面203bが床面400と接触することを抑制することができる。そのため、床面400に付着している埃等の異物が第2の底面203bに付着することを防止できる。図11では床面400にインクリボンカセット200を置いたときを例に説明したが、床面400だけではなく机などの他の平面においた場合も同様である。

【0058】

図12～図14はプリンタ本体100の印画動作を説明する断面図である。

30

【0059】

図12(a)は待機状態のときの様子を示す断面図、図12(b)は用紙301を給紙したときの様子を示す断面図である。図13(a)は用紙301が印画開始位置にある様子を示す断面図、図13(b)は印画開始前の様子を示す断面図である。図14(a)は印画動作中の様子を示す断面図、図14(b)は印画終了時の様子を示す断面図である。

【0060】

図12(a)に示すように120はサーマルヘッド、121はサーマルヘッド支持アーム、122は放熱板、130はプラテンローラである。サーマルヘッド支持アーム121は不図示の回転軸を中心に回転可能に支持されている。サーマルヘッド120はサーマルヘッド支持アーム121に支持されており、図12(a)に示す位置から図13(b)に示す位置に回転可能であり、プラテンローラ130との間で圧接力を生じさせることができる。放熱板122はサーマルヘッド120に取り付けられており、サーマルヘッド120で発生した熱を放熱板122に移動することができるよう構成されている。プラテンローラ130はプリンタ本体100に回転自在に配置されており、用紙301の搬送に合わせて回転するように構成されている。

40

【0061】

131は搬送ローラ、132は従動ローラである。搬送ローラ131は不図示の用紙搬送モータにより駆動され回転駆動することができる。従動ローラ132は搬送ローラ131に対向している従動ローラであり、搬送ローラ131の回転に追従して回転を行うように構成されている。

50

【 0 0 6 2 】

1 3 3 は給紙ローラ、1 3 4 は排紙ローラである。給紙ローラ 1 3 3 は不図示の給紙駆動モータにより駆動され回転駆動することができる。排紙ローラ 1 3 4 は給紙ローラ 1 3 3 に対向している従動ローラであり、給紙ローラ 1 3 3 の回転に追従して回転を行うように構成されている。

【 0 0 6 3 】

1 5 0 は用紙ガイドであり、給紙時に用紙 3 0 1 により持ち上げられ図 1 2 (a) に示す位置から図 1 2 (b) に示す位置に回動可能に支持されている。また、用紙ガイド 1 5 0 は常に下方方向に付勢されており、図 1 2 (a) に示す位置にある。1 5 1 は加圧板であり不図示の駆動源により回動駆動され図 1 2 (a) に示す位置から図 1 2 (b) に示す位置まで回動可能に構成されている。

10

【 0 0 6 4 】

以下、プリンタ本体 1 0 0 の印画動作を説明する。

【 0 0 6 5 】

プリンタ本体 1 0 0 のインクリボンカセット挿入口 1 0 1 からインクリボンカセット 2 0 0 を装填すると、図 9 (b) のようにプリンタ本体 1 0 0 の当接面 1 1 0 a、1 1 0 b とインクリボンカセット 2 0 0 の先端当接部 2 1 8 a、2 1 8 b がそれぞれ当接する。弾性係合片 2 1 4 a、2 1 4 b が図 9 (b) に示す位置まで撓むことでインクリボンカセット 2 0 0 の係合部 2 1 7 a、2 1 7 b と供給ボビン 2 0 5 の回転規制部 2 0 5 f、巻き取りボビン 2 0 7 の回転規制部 2 0 7 f との係合が解除される。係合が解除されることにより、供給ボビン 2 0 5 及び巻き取りボビン 2 0 7 は回転可能となり、供給ボビン 2 0 5 及び巻き取りボビン 2 0 7 がプリンタ本体に設けられた回転駆動機構（不図示）によって回転駆動可能となる。

20

【 0 0 6 6 】

そして、操作部 1 0 4 を操作し印画指示がなされると図 1 2 (b) に示すように加圧板 1 5 1 が不図示の駆動源により回動駆動され用紙トレイ 3 0 0 に収納された用紙 3 0 1 が給紙ローラ 1 3 3 と当接する。そして、給紙ローラ 1 3 3 が不図示の給紙駆動源により回転駆動されることにより用紙 3 0 1 が用紙トレイ 3 0 0 から給紙される。この際に、用紙 3 0 1 の先端が用紙分離部 3 0 2 に当接することで最表面の用紙 3 0 1 の 1 枚のみを分離し給紙することができる。そして、用紙 3 0 1 は用紙ガイド 1 5 0 を押し上げながら搬送される。

30

【 0 0 6 7 】

そして用紙 3 0 1 が図 1 2 (b) に示す搬送ローラ 1 3 1 と従動ローラ 1 3 2 のニップ位置まで搬送されると不図示の用紙搬送モータが回転して搬送ローラ 1 3 1 を駆動する。搬送ローラ 1 3 1 は、用紙 3 0 1 を、サーマルヘッド 1 2 0 とプラテンローラ 1 3 0 の間を通過するように図 1 2 (b) の矢印 G 方向に搬送する。

【 0 0 6 8 】

次に、用紙 3 0 1 が図 1 3 (a) に示すようにインクリボンカセット 2 0 0 の第 1 の底面 2 0 2 a に接触しガイドされながら印画開始位置まで搬送される。印画開始位置まで搬送されると、印画を行うため、まずは、イエロー印画が開始される。

40

【 0 0 6 9 】

まず、図示しない駆動源によりサーマルヘッド支持アーム 1 2 1 が回動しサーマルヘッド 1 2 0 を図 1 3 (a) の退避位置から図 1 3 (b) の印画位置で静止させ、サーマルヘッド 1 2 0 とプラテンローラ 1 3 0 で用紙 3 0 1 を圧接する。その後、搬送ローラ 1 3 1 により用紙 3 0 1 が図 1 3 (b) の矢印 H 方向に搬送され、制御装置（不図示）からの印画信号によりサーマルヘッド 1 2 0 の発熱体が発熱し、インクリボン 2 0 4 上のイエローの染料を用紙 3 0 1 へ熱転写させ、イエロー印画を行う。

【 0 0 7 0 】

印画動作中の用紙 3 0 1 は、図 1 4 (a) に示すようにインクリボンカセット 2 0 0 の第 1 の底面 2 0 2 a 及び第 2 の底面 2 0 3 a に用紙 3 0 1 の印画面が接触しガイドされな

50

がら搬送される。

【 0 0 7 1 】

印画動作中のインクリボン 2 0 4 は図示しない駆動源により巻き取りボビン 2 0 7 が回転駆動され、用紙 3 0 1 と共に同じ搬送速度で図 1 4 (a) の矢印 H 方向に搬送が行われる。インクリボンカセット 2 0 0 に回転自在に保持されているシャフト 2 3 0 に、インクリボン 2 0 4 が当接しながら搬送されるため、インクリボン 2 0 4 の搬送抵抗を小さくすることができ、インクリボン 2 0 4 の搬送不良による皺等の印画不良を防ぐことができる。

【 0 0 7 2 】

そしてイエロー印画が完了すると次のマゼンタ印画を行うため、リターン動作を行う。まず、サーマルヘッド支持アーム 1 2 1 を回動させ、サーマルヘッド 1 2 0 とプラテンローラ 1 3 0 の圧接を解除し、図 1 4 (b) に示す退避位置に静止させる。サーマルヘッド 1 2 0 がプラテンローラ 1 3 0 から離間させることにより、用紙 3 0 1 とインクリボン 2 0 4 とを個別に搬送することが可能となる。そして、搬送ローラ 1 3 1 により、インクリボンカセット 2 0 0 の第 1 の底面 2 0 2 a に接触させガイドしながら用紙 3 0 1 を矢印 G 方向に搬送し、図 1 3 (a) の印画開始位置まで搬送する。

10

【 0 0 7 3 】

また、同時に、次のマゼンタ印画を開始するためにサーマルヘッド 1 2 0 と対向する位置にインクリボン 2 0 4 のマゼンタ印画開始位置が合うように、巻き取りボビン 2 0 7 を回転させ、インクリボン 2 0 4 を供給ボビン 2 0 5 から引き出す。

20

【 0 0 7 4 】

そして用紙 3 0 1 が印画開始位置まで搬送されインクリボン 2 0 4 のマゼンタ印画開始位置の頭出しを行われるとリターン動作が終了しマゼンタ印画を開始する。

【 0 0 7 5 】

マゼンタ印画は前述したイエロー印画と同様に、図示しない駆動源によりサーマルヘッド支持アーム 1 2 1 が回動しサーマルヘッド 1 2 0 を図 1 3 (b) の位置で静止させ、サーマルヘッド 1 2 0 とプラテンローラ 1 3 0 で用紙 3 0 1 とインクリボン 2 0 4 を圧接する。その後、搬送ローラ 1 3 1 により用紙 3 0 1 を図 1 3 (b) の矢印 H 方向に搬送しながら制御装置 (不図示) からの印画信号によりサーマルヘッド 1 2 0 の発熱体を発熱させ、インクリボン 2 0 4 のマゼンタの染料を用紙 3 0 1 へ熱転写させてマゼンタ印画を行う。

30

【 0 0 7 6 】

その後、イエロー印画後と同様にリターン動作を行い、そして次に、イエロー印画、マゼンタ印画と同様に、シアン印画を行うことで用紙 3 0 1 にカラー画像を印刷することができる。

【 0 0 7 7 】

本実施形態のプリンタ本体 1 0 0 は 3 色の印画を行った後に用紙 3 0 1 に印画された画像が外的な要因により劣化することを低減するために、オーバーコート印画を行う。

【 0 0 7 8 】

オーバーコート印画に関しても前述したイエロー印画と同様にまずはリターン動作を行い、用紙 3 0 1 を印画開始位置まで搬送させる。そして、インクリボン 2 0 4 のオーバーコート印画開始位置への頭出し搬送が行われるとリターン動作が終了しオーバーコート印画を開始する。

40

【 0 0 7 9 】

オーバーコート印画は前述したイエロー印画と同様に行う。まず、駆動源によりサーマルヘッド支持アーム 1 2 1 を回動させてサーマルヘッド 1 2 0 を図 1 3 (b) の位置で静止させ、サーマルヘッド 1 2 0 とプラテンローラ 1 3 0 で用紙 3 0 1 とインクリボン 2 0 4 を圧接する。その後、搬送ローラ 1 3 1 により用紙 3 0 1 を図 1 3 (b) の矢印 H 方向に搬送させながら、制御装置 (不図示) からの印画信号によりサーマルヘッド 1 2 0 の発熱体を発熱させてインクリボン 2 0 4 上のオーバーコート層を用紙 3 0 1 へ熱転写させる

50

。

【0080】

オーバーコート印画（転写）が終了すると、プリンタ本体100は用紙301を排紙するために給紙ローラ133を回転駆動し、用紙301を給紙ローラ133と排紙ローラ134でニップして矢印H方向に搬送させ、プリンタ本体100の外部へ排出する。

【0081】

このようにプリンタ本体100の印画動作においてインクリボンカセット200の第1の底面202aと第2の底面203aが用紙301の搬送経路の一部となる。そのため、第1の底面202a及び第2の底面203aに埃等の異物が付着していると印画動作中に用紙301の印画面に埃等の異物が付着してしまい用紙301に染料が転写されず、色ぬけ等が発生してしまうことがある。

10

【0082】

しかしながら、前述した通り、本実施形態のインクリボンカセット200は、床面400に置いたときに第1の底面202a及び第2の底面203aが床面400と接触することが無く埃等の異物が付着することを防ぐことができる。

【0083】

（第2の実施形態）

以下に、図15乃至図17を参照して第2の実施形態について説明する。

【0084】

基本的な構成は第1の実施形態と同じであるため、異なる部分のみを説明する。

20

【0085】

図15は第2の実施形態におけるインクリボンカセット200の斜視図、図16は本発明の第二の実施例における上ケース201の斜視図、図17は第二の実施例におけるインクリボンカセット200の断面図である。また、図16及び図17は説明を簡略化するために弾性係合片214a、214bを省略している。

【0086】

なお、説明を簡略化するため同一箇所については第一の実施例と同じ符号を付与している。

【0087】

インクリボンカセット200は図15に示すように上ケース201の側壁には第1の凸部201bと第2の凸部201cを有する。上ケース201には図16及び図17に示すように供給ボビン205及び巻取りボビン207を軸支する軸受部231、232を有する。軸受部231、232は、供給ボビン205及び巻取りボビン207の第1の凸部201bと第2の凸部201c側を支持している。

30

【0088】

また、上ケース201の第1の凸部201bと第2の凸部201c軸受部231、232係合爪部211b、213b、の近傍には、被係合部220、221が設けられている。被係合部220、221は、第1の下ケース202の係合爪部211b、第2の下ケース203の係合爪部213bとそれぞれ係合して、インクリボンカセット200が形成される。

40

【0089】

次に、インクリボンカセットが落下した場合について説明する。

【0090】

インクリボンカセット200が図中矢印I方向に落下した場合、インクリボンの自重を受ける軸受部231、232や、床面と当接する凸部201b、201cは大きな荷重を受ける。そのため、落下した際には、軸受部231、232や凸部201b、201cの近傍に設けられている係合爪部や被係合部も荷重を受けやすく、特に、係合爪部は変形しやすい構成のため、大きな荷重を受けてしまうと、係合が外れやすくなってしまふ。そこで、本実施形態のインクリボンカセットは、落下した際に、係合爪部にかかる荷重が小さくなり、係合が外れにくくなる構成としている。

50

【 0 0 9 1 】

図 1 7 を参照して、落下した際に、係合爪部にかかる荷重を小さくするための構成を説明する。

【 0 0 9 2 】

落下した場合、上ケース 2 0 1 の第 1 の凸部 2 0 1 b と第 2 の凸部 2 0 1 c が床面と当接する。この際に、インクリボン 2 0 4 の荷重が、供給ボビン 2 0 5、巻取りボビン 2 0 7 の軸の凸部 2 0 1 b、2 0 1 c 側を支持している軸受部 2 3 1、2 3 2 に図中矢印 I 方向に発生する。このインクリボン 2 0 4 による荷重は、軸受部 2 3 1、2 3 2 に同じ部材に設けられている、第 1 の凸部 2 0 1 b と第 2 の凸部 2 0 1 c に伝わる。軸受部 2 3 1、2 3 2 は上ケース 2 0 1 に設けられているため、第 1 の下ケース 2 0 2 の係合爪部 2 1 1 b 及び第 2 の下ケース 2 0 3 の係合爪部 2 1 3 b に生じる荷重を小さくすることができる。

10

【 0 0 9 3 】

また、インクリボンカセット 2 0 0 が落下した際には、第 1 の凸部 2 0 1 b と第 2 の凸部 2 0 1 c が床面に当接し、インクリボンカセットの荷重を受けることになる。第 1 の凸部 2 0 1 b と第 2 の凸部 2 0 1 c についても、上ケース 2 0 1 に設けられているため、第 1 の下ケース 2 0 2 の係合爪部 2 1 1 b 及び第 2 の下ケース 2 0 3 の係合爪部 2 1 3 b に生じる荷重を小さくすることができる。

【 0 0 9 4 】

このように、本実施形態では、荷重を受けることになる凸部 2 0 1 b、2 0 1 c や軸受部 2 3 1、2 3 2 を、係合爪部 2 1 1 b、2 1 3 b が設けられているケースとは別のケースに設けた。そのため、係合爪部 2 1 1 b、2 1 3 b に発生する荷重を小さくことができ、上ケース 2 0 1 と第 1 の下ケース 2 0 2 及び第 2 の下ケース 2 0 3 の係合が外れることを抑制することができる。

20

【 0 0 9 5 】

(その他の実施形態)

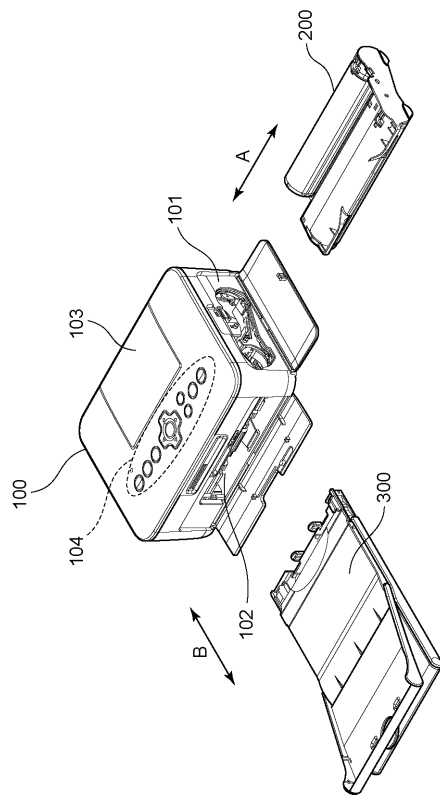
以上、本発明の好ましい実施形態について説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されず、その要旨の範囲内で種々の変形及び変更が可能である。

【 0 0 9 6 】

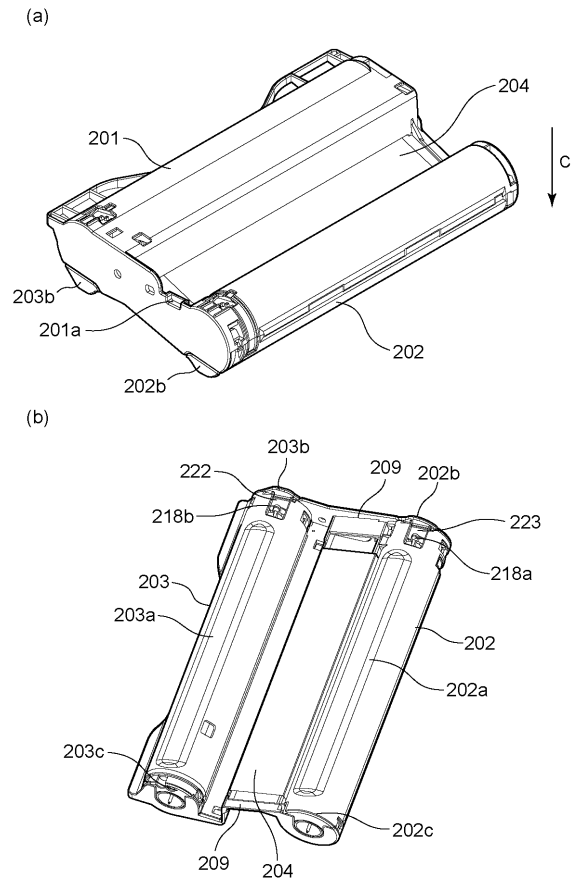
上述の実施形態では、上ケース 2 0 1 と第 1 の下ケース 2 0 2 及び第 2 の下ケース 2 0 3 を係合させることによりインクリボンカセット 2 0 0 を形成したが、これに限定されない。例えば、第 1 の下ケース 2 0 2 と第 2 の下ケース 2 0 3 を一体的構成した下ケースと上ケース 2 0 1 とによりインクリボンカセット 2 0 0 を形成してもよい。

30

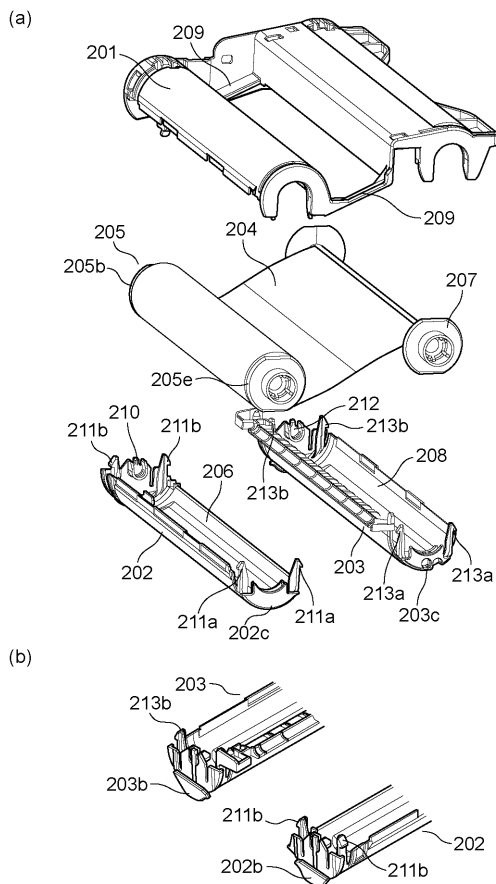
【図 1】



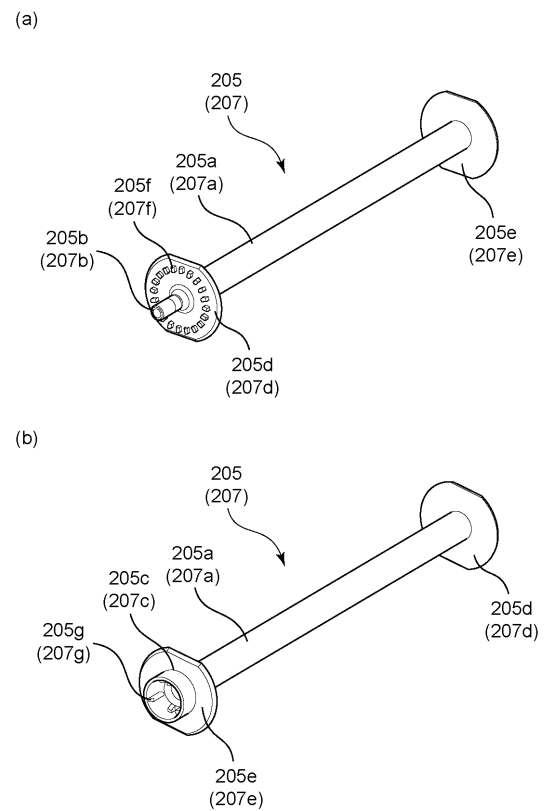
【図 2】



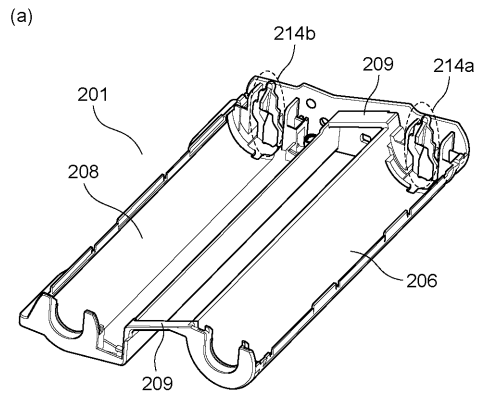
【図 3】



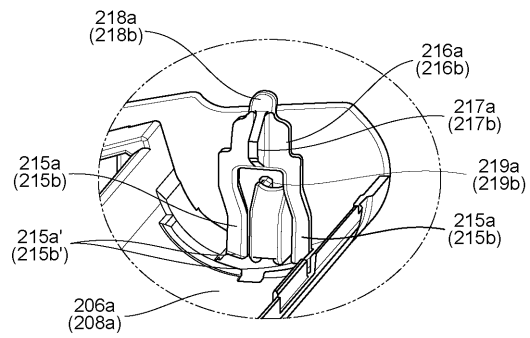
【図 4】



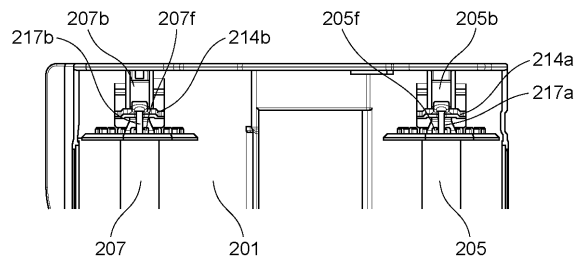
【図 5】



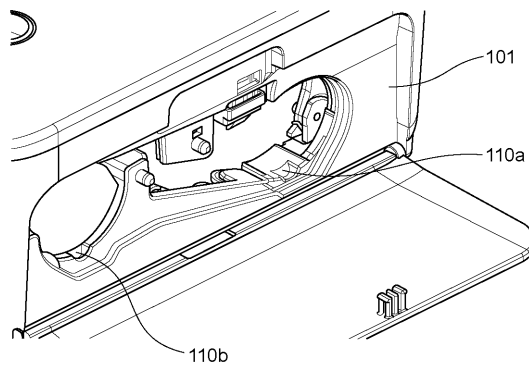
(b)



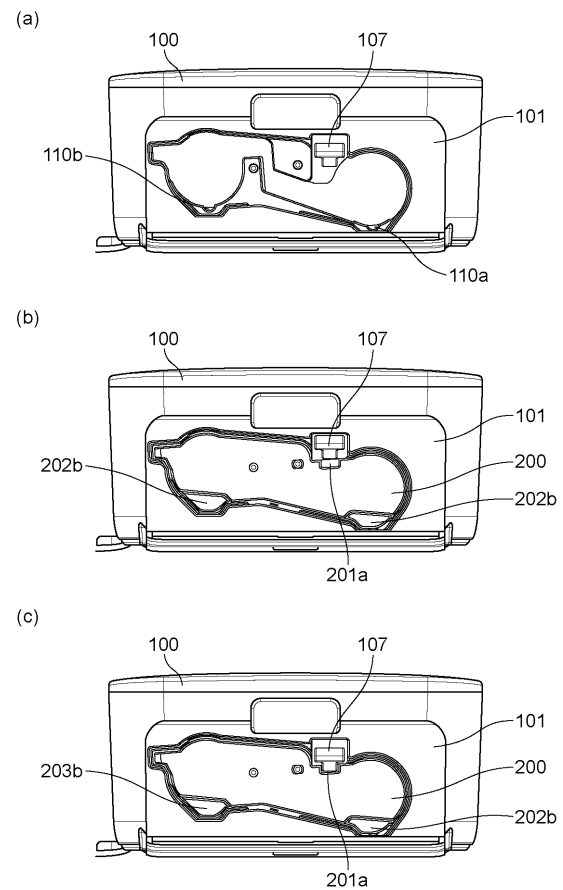
【図 6】



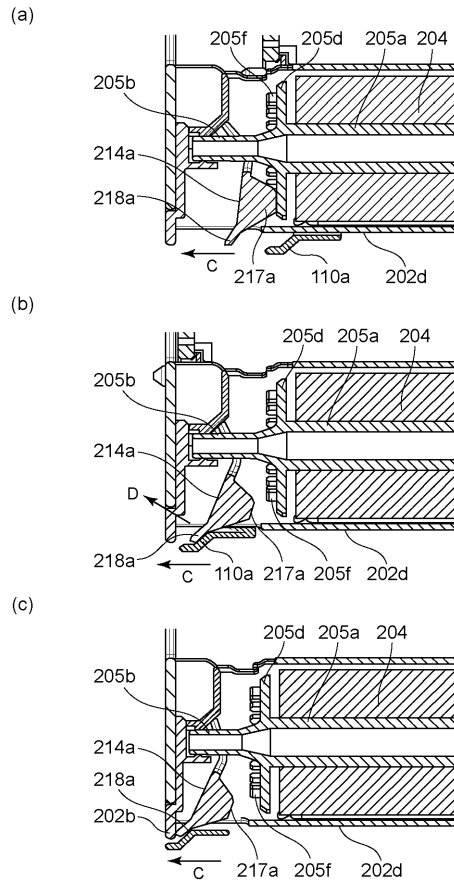
【図 7】



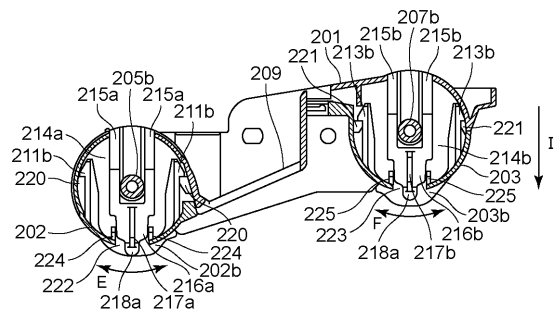
【図 8】



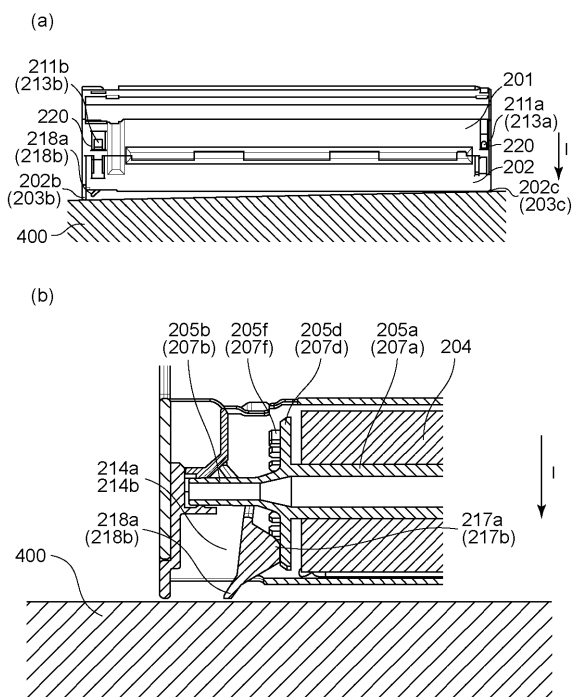
【図 9】



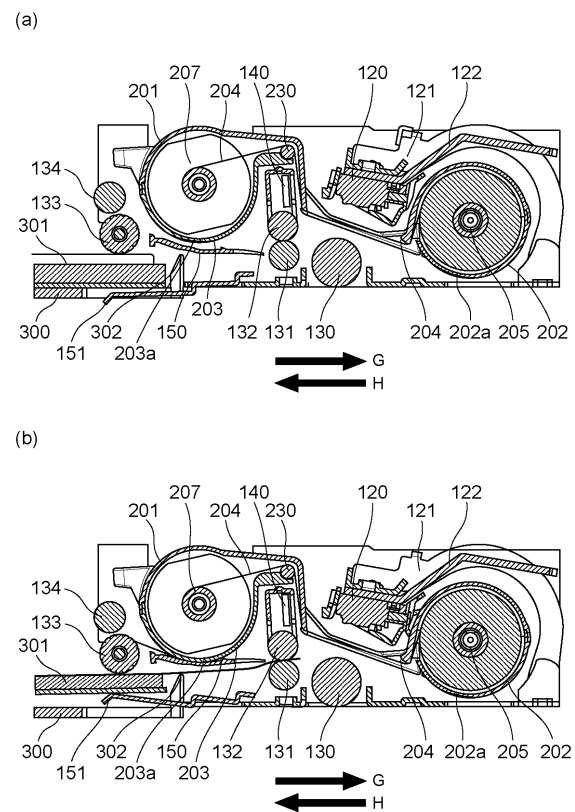
【図 10】



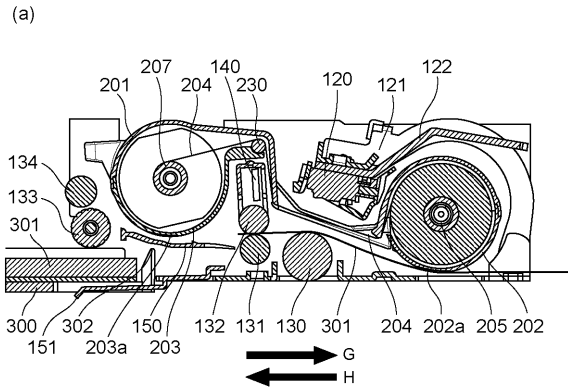
【図 11】



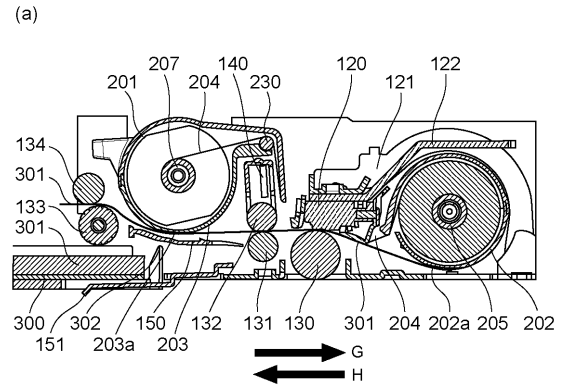
【図 12】



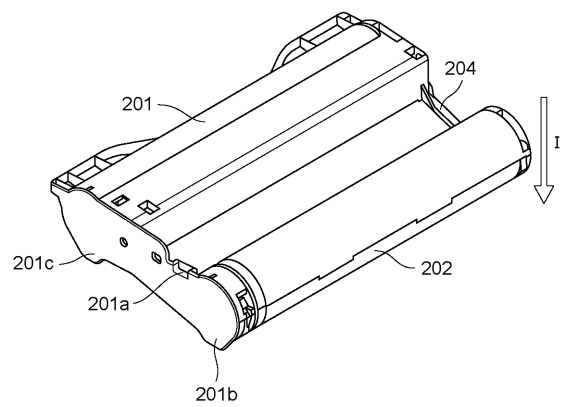
【図 13】



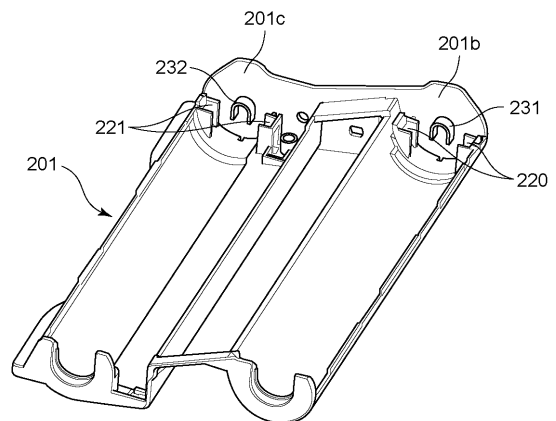
【図 14】



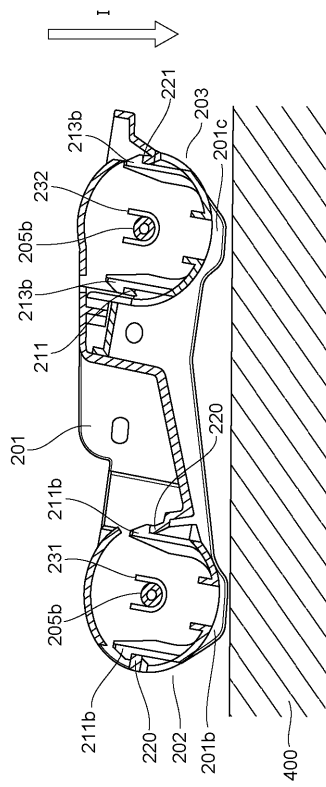
【図 15】



【図 16】



【図 17】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平05-305745(JP,A)
特開昭60-240482(JP,A)
特開平04-067063(JP,A)
特開昭61-120552(JP,A)
特開平01-272477(JP,A)
特開2001-205881(JP,A)
特開2015-051517(JP,A)
米国特許出願公開第2012/0027486(US,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B41J 17/32
B41J 32/00